

試験日 : 2025年2月22日

入試種別 : 2025年度 大学院(修士課程) 入学試験問題

学部・研究科 : 社会学研究科社会学専攻社会学コース

科目名 : 社会学概論

解答又は解答例

【問1】

[A群]

①特定の社会に生まれ落ちた社会のメンバーに、一人前の大人にふさわしい能力、意欲、身体を(社会の側が)身につけさせ、一人前の大人に育てるプロセス。特定の職業において、一人前の職業人に養成するプロセスは、「職業社会化」と呼ばれる。

②社会のメンバーの振る舞いや心身の状態が、社会のメンバーとして準拠すべき標準から外れている、それに及ばないとされる事態が「逸脱」であり、それに対して、標準に従う振る舞いに戻し、標準に及ぶ心身の状態したり、このような「逸脱」した個人を援助したり、このような「逸脱」が当人や他者に及ぼす危害を防止する社会の対応が「社会統制」である。

③「社会的排除(ソーシャル・エクスクルージョン)」と対をなす概念。社会的排除とは、通常の市民が享受している社会のいろいろな場面(就学、就労、自立して生活すること、家族をつくること、文化活動・娯楽など)への参加を拒まれていることである。この意味で社会的排除の対象になりやすい者は、ひとつは貧困者である。もうひとつは、障害者(要介護高齢者を含む)である。なお、障害者(要介護高齢者を除いて)は、就労困難を通して、貧困者にもなりやすい。これに対して、貧困者や障害者にも、上記のような場面への通常の市民と変わらない参加の機会を与えることが社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)である。この概念は社会を記述する用語というよりも、社会変革の目標を示す用語である。

[B群]

①J. ボードリヤールの消費社会論の提起以降、社会学の主要な見解によると、先進社会において、20世紀の第4四半世紀およびそれ以降、いわゆる「後期近代」に、それ以前の生産と消費のあり方と異なる新たな生産と消費のあり方がみられる社会が消費社会である。その新たな生産と消費のあり方としては、既存の需要に応じて生産が行われるのではなく、生産の側が新たな需要を作りだすこと、そのために商品の広告が重要となること、消費者の側では、消費が生活の必要を満たすためということ以上に、自己の個性を表現するものとなること、等が指摘されている。

②先進社会において、20世紀の第4四半世紀およびそれ以降、いわゆる「後期近代」

に、コンピューターとその他の情報通信技術（ICT）の革新とその普及の結果、社会の様々な領域で変容が生じており、そのような変容の見られる社会が「情報（化）社会」と呼ばれる。コンピューターの点では、高性能のパーソナルコンピュータ（PC）の普及があり、その他の ICT としては、情報のデジタル化、デジタル化された情報の大規模な集積とそのように集積された大量の情報を高速に処理しうるメインフレーム・コンピュータの発達、そのように集積された情報と PC、そして PC 同士をつなぐグローバルな高速ネットワークの発達がある。近年のスマートフォンと携帯電話回線の高速化およびこの回線の高速ネットワークへの接続や、生成 AI の登場もこの発展の延長線上に位置付けられる。こうした ICT が可能としたインターネット空間ともいえるべきものが生み出されており、これを通して社会の様々な領域で社会変容が生じていて、それらの正負両方の影響は社会学の追究すべき課題です。

③イギリスの社会学者、アンソニー・ギデンスが 1992 年に刊行した著作のタイトルであり、ギデンスはこの著作において、そのタイトルが示すとおり、欧米先進国の後期近代（ギデンスの用語法では「ハイ・モダニティ」）における男女（に限らず同性）間の性愛を媒介とした親密な関係の変容を扱っている。ギデンスによれば、後期近代においては、それ以前のロマンティック・ラブにかわり、親密関係それ自体が目的となり、その意味が見いだされなければ継続しない「コンフルエンス・ラブ」への変容が生じている。ギデンスは、この「コンフルエンス・ラブ」の特徴、社会の民主化につながる可能性、嗜癖、共依存、男らしさの危機などに陥る危険性を論じている。

[C 群]

①質問紙（調査票）調査において、被調査者が紙またはスクリーン上に文字で記された質問文を読み、回答をその紙に記す、あるいはそのスクリーンに入力するのが「自記式調査」、調査者が質問文を口頭で読み上げ、被調査者が口頭で回答し、その回答を調査者が調査票に記すのが「他記式調査」である。

②2つのカテゴリカル変数（カテゴリー変数、質的変数）の連関・相関の程度を見るために、2つの変数の各カテゴリーの組み合わせについて、該当するケースの度数を集計して、表にしたもの。

③社会の様々な領域で作成される文書であり、それを資料とした社会調査において、その文書は「ドキュメント」と呼ばれる。この意味では、「公式文書」だけでなく、私的な領域で作成される日記、手紙、家計簿なども「ドキュメント」である。AV 技術、ICT 技術の発展とインターネットの普及に伴い、紙に記されたものだけでなく、フィルム、ファイル、Web ページ、電子メール、SNS への投稿という形式の「ドキュメント」が膨大に作成されている。

【問 2】

研究テーマは、これまで社会学が取り組んできた社会現象を記す。そうでない場合は、その解明がどのような社会学的な意義を有するかも記す。「研究領域」ともいうべき抽象的なものではなく、また、「研究課題」ともいうべき具体的なものでもなく、その中間の抽象性／具体性のある社会現象を記す。社会学的視点については、社会学のどの専攻領域（研究分野）に属する研究かを記し、その専攻領域（研究分野）では、取り組む予定の研究テーマが、どのような視点から捉えられているか、どのような専門用語を用いて記述されているかを記す。研究方法については、どのような社会調査法を用いるかを、社会調査法の用語を用いて記す。なお、一人前の研究者が研究助成を申請する際に提出する研究計画書のようなものはあまり高く評価されない。そのような研究計画書が書ける（そして実行できる）研究者の養成課程の最初の2年間は修士課程なので、むしろ、学部レベルの社会学の知識で、この設問に答えてほしい。